

古文書の気象・災害記録をどう活かすか
仙台・宮城での史料保全をふまえて

佐藤大介（東北大学）

■ 今日の報告

報告者は、江戸時代の研究者として、また地域の史料保存に関わる立場として、主に南奥羽の気象に関わる記録に触れる機会を得てきた。いくつかの具体的な事例を紹介するとともに、分野を超えた協業のための解決すべき課題について、個人的な見解を述べたい。

■ 1 江戸時代の天候・天変地異記録との関わりー仙台・南奥羽

（１）自分のこれまでの研究

①自身の研究

- ・卒業論文 「安藤政昭日記」（『桑折町史』史料編所収 5 冊）
- ・修士・博士論文 『宗尹日記』（現・山形県尾花沢市 弘化 3 年～明治 14 年 私家版）
- ・その後 『18 ～ 19 世紀仙台藩の災害と社会 別所万右衛門記録』（天保 4 ～ 15 年「天保凶歳日記」全文翻刻を収録）

江戸時代の日記（・私記録／書簡など）を主な研究資料にしてきた

それらには、天候・「天変地異」に関する記述も多い

しかしほとんど活用せず（できず）。

＊別所万右衛門「天保凶歳日記」天保 7 年 31469 文字中 11694 文字 日々の天気
人間の振るまい（個人史）、社会のしくみへとの関係 ほとんど考慮せず。

②宮城県・旧仙台藩領での史料保全活動

NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク 2003 ～

災害、社会的要因での危機から地域の資料を保全する 「3.11」 対応

（２）仙台・南東北の気象関係史料について

- ・「歴史気候データベース」 福島県、宮城県の史料は未所収

当時の史料所在確認方法の問題（？）

＊宮城県・旧仙台藩 「伊達治家記録」日々の天候記述なし かつ江戸中期まで

藩庁文書 空襲でほぼ焼失 盛岡藩「雑書」相当の史料なし

①「日単位」（一〇〇年を越えるもの）

未活字化のもの 総量は「不明」（「たくさんある」以上の事はいえない）

- ・宮城県 不明（現時点で確認出来ず）
- ・福島県 「守山藩御用日記」（郡山市歴史資料館所蔵）元禄 16（1703）～嘉永 5 年（1852）
「累世年鑑」（福島県歴史資料館所蔵）天明～昭和 ＊天保期閲覧不可
- ＊「守山藩～」は 2002 年、福島地方気象台・高橋正清氏が気象記事をリスト化

②「季」、「年」単位

- ・宮城県 例）各種の「暦面裡書」（年代記）（作田 2007 に一覧表掲載）
天明・天保期が中心 収録期間が 100 年を越える記録も
- ・山形県 村山地方「念仏講帳」（念仏講の会合記録／各種の情報が記載）
例）『大町念仏講帳』（河北町誌編纂史料 1991 年 1685 ～ 1945 年の年鑑）
- ・福島県 各種の「年代記」
例）「御作法諸式留帳」（『梁川町史資料集』24 1988）慶長～享保
松沢家「年代記」（『白沢村史』資料編 1991） 天正～安政
江戸時代・各年の春夏秋冬の概況、天変地異は押さえられる
＊なぜ記録を遺すのか？ 情報自体の価値の高まり（作付、相場変動への対応）？

■ 2 自分の研究における天候・天変地異の位置づけ

江戸時代後期・南奥羽の地域リーダーの社会的活動（公益事業など）

大きな課題の一つが飢饉対応

＊「飢饉」 異常気象と同義ではなく「社会的」災害（菊池 1994 など）

＊歴史学と災害（倉地 2016）

自然災害 対象により個別化

歴史学 人々や社会がどう反応したかを総合的に問うことができる

「社会の変動」←→「古文書を手がかりにした天変地異・自然環境復元」（歴史学？）

○天保6年閏7月7日（1835年8月30日）大嵐・洪水（佐藤 2017）

①台風進路の復元 新出古文書（「丸吉皆川家日誌」一関市）／郷土史家の協力

②台風・洪水による被害の確認

仙台城下町の浸水／領内全域の洪水 貯穀蔵の流失など

＊損毛高届 73万石／93万石（81パーセント）

③政治状況への影響

同年6月26日（旧暦）の大地震と合わせ、藩主主導での藩政改革批判の言説

「災害発生は新しい事を企てる政治のせい」（天譴論）

これまで「天保4年から9年まで続いた不作状況」に埋もれていた台風・地震

天保6年の「複合災害」 → 天保7年（1836）冷夏・大凶作の被害を拡大？

＊「天変地異」と政治過程の関係 「いつ」が問題

■ 3 今後に向けて

（1）史料の所在確認

・未活字化文書 膨大 消滅の危機 ＊保存推進のためにも「活用の可能性」

・活字化（出版）史料 すでに多数出版

自治体・地域単位での出版 情報が集約しにくい

基礎的な史料情報の収集・情報共有 第一歩かつ効果的 → どうやって？

（2）歴史研究者・市民との関係

○専門研究者の現状

・「文系廃止通達」 若手研究者の激減（人文・社会系博士進学者 2003 → 17 4割減）

・歴史系博物館 人員・予算不足 → 非正規雇用化／指定管理者制度

○地域の史料保全活動

市民参加の重要性（「地域の歴史を自ら調べる・守る」）

＊大分県 「大分県災害データアーカイブ」（NHK 大分放送局） 地元史談会が協力

○市民との「適切」な協力とは

例）「丸吉皆川家日誌」（岩手県一関市）の解説

天保期 1100 頁、幕末維新时期 900 頁 仙台領の日記・年代記では屈指の質量

月 1 度の解説会 地元古文書サークルの練達者と 2015 年 9 月より

1 回あたり 6500 字程度 → 全文解説 10 年程度を要する見込み

＊「歴史に親しみたい」市民を、「研究競争」に関与させることの是非

（参考）

菊池勇夫『飢饉の社会史』（校倉書房 1994 年）

倉地克直『江戸の災害史』（中公新書 2016 年）

作田将三郎「地方語文献資料としての庶民記録—飢饉資料・農事日記・年代記について—」

『日本語の研究』3-2 2007 年 ＊jstage にて全文公開

佐藤大介「中井家文書に見る仙台藩の災害」（『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』50、2017 年） ＊滋賀大学リポジトリにて公開